

定期作況報告

平成22年6月
(6月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

1. 気象経過

5月下旬：最高気温は平年より極めて低く、最低気温は低く、平均気温は平年より極めて低かった。降水量は平年より多かった（平年比164%）。日照時間は平年より多かった（平年比142%）。

6月上旬：最高気温は平年よりやや高く、最低気温はやや低く、平均気温は平年よりやや低かった。降水量は平年より少なかった（平年比58%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比121%）。

6月中旬：最高気温、最低気温および平均気温はともに平年より極めて高かった。降水量は平年より多かった（平年比142%）。日照時間は平年より極めて多かった（平年比230%）。

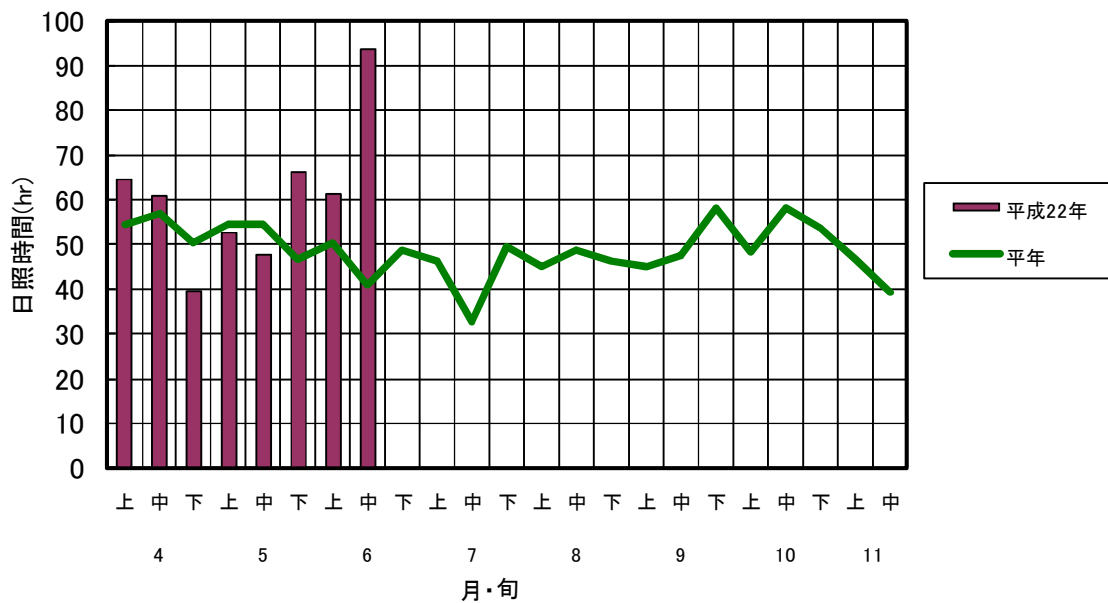
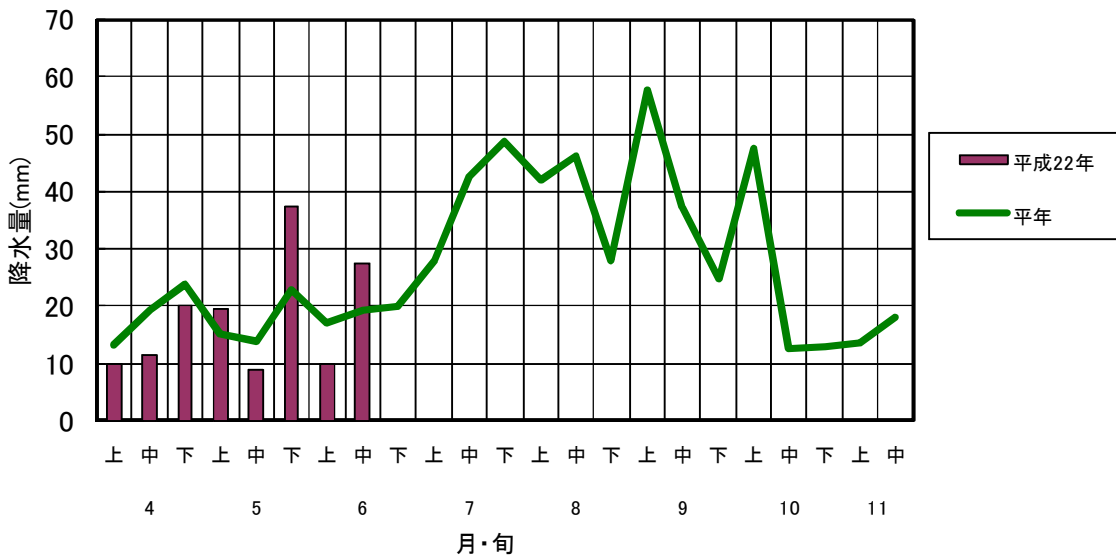
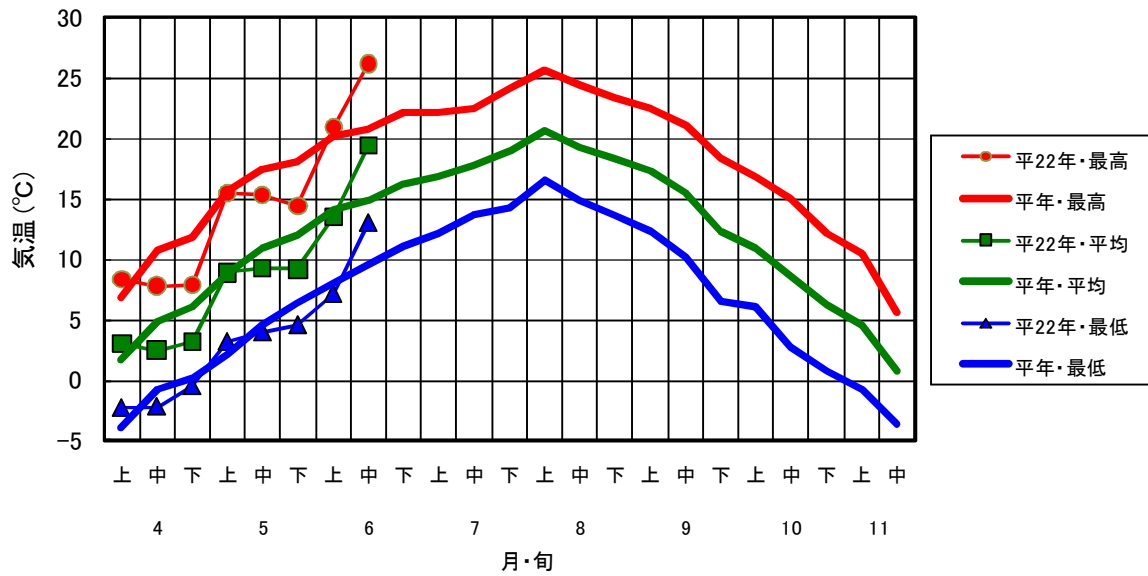
以上のことから、この1か月間（5月下旬～6月中旬）は平年と比較して、気温が平年並で、降水量はやや多く、日照時間は多かった。

気象表

項目 月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
5月下旬	9.2	12.0	△ 2.8	14.4	18.1	△ 3.7	4.6	6.3	△ 1.7
6月上旬	13.5	14.1	△ 0.6	20.9	20.2	0.7	7.2	8.1	△ 0.9
6月中旬	19.4	14.9	4.5	26.2	20.8	5.4	13.1	9.5	3.6

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
5月下旬	37.5	22.8	14.7	66.4	46.9	19.5
6月上旬	10.0	17.2	△ 7.2	61.3	50.5	10.8
6月中旬	27.5	19.3	8.2	93.8	40.8	53.0

- 注) 1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。
2) 平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦 作況：平年並

事由：5月下旬の平均気温は平年より極めて低く、6月上旬の平均気温も平年よりやや低かったことから生育は緩慢に推移し、出穂期は平年より4日遅かった。6月中旬の平均気温は高かったが、草丈は平年より低く、茎数は平年よりやや多い。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ホクシン		
	本年	平年	比較
出穂期 (月.日)	6.13	6.9	4
草丈(cm) (6月20日)	80.8	93.1	△12.3
茎数(本/m ²) (6月20日)	828	747	81

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最豊)、18年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 春まき小麦 作況：平年並

事由：5月下旬は、気温が極めて低く経過したことから生育は停滞気味であったが、6月中旬以降は、気温が高く日照時間も多かったため生育が回復し、草丈は平年より低く、茎数は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ハルユタカ			春よ恋		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (6月20日)	56.7	65.1	△ 8.4	58.9	66.6	△ 7.7
茎数(本/m ²) (6月20日)	812	767	45	828	784	44

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

3) とうもろこし 作 況：平年並

事 由：播種期は平年より2日遅い5月18日であった。播種後5月下旬の気温が平年より極めて低く推移したため、出芽期は平年より4日遅い6月3日であった。6月中旬の気温が平年より極めて高く、日照時間も多く推移したため、草丈・葉数ともに平年並に達している。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
播種期 (月.日)	5.18	5.16	2
出芽期 (月.日)	6.3	5.30	4
草丈(cm) (6月20日)	32.9	30.9	2.0
葉数(枚) (6月20日)	5.0	4.6	0.4

注) 平年値は前6か年の平均(供試品種が変更されたため)。

4) 大 豆 作 況：やや良

事 由：平年より2日遅い5月24日に播種を行った。播種後、5月下旬～6月上旬の平均気温は平年より低かったため、出芽期は平年より6日遅れた。しかし、出芽後、6月中旬の平均気温は極めて高く、また日照時間も多かった。そのため、出芽後の生育は順調で、主茎長、本葉数は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	トヨコマチ			ユキホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期 (月.日)	5.24	5.22	2	5.24	5.22	2
出芽期 (月.日)	6.12	6.6	6	6.13	6.7	6
主茎長(cm) (6月20日)	10.8	9.6	1.2	9.7	8.8	0.9
本葉数(枚) (6月20日)	1.4	0.7	0.7	1.3	0.6	0.7

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

5) 小豆

作況：やや良

事由：平年より2日遅い5月24日に播種を行った。播種後、5月下旬～6月上旬の平均気温は平年より低かったため、出芽期は平年より3日遅れた。しかし、出芽後、6月中旬の平均気温は極めて高く、また日照時間も多かった。そのため、出芽後の生育は順調で、主茎長はほぼ平年並であるが、本葉数は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	サホロシヨウズ			エリモシヨウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期 (月.日)	5.24	5.22	2	5.24	5.22	2
出芽期 (月.日)	6.12	6.9	3	6.13	6.10	3
主茎長(cm) (6月20日)	3.2	3.5	△ 0.3	3.8	3.5	0.3
本葉数(枚) (6月20日)	1.0	0.3	0.7	0.9	0.2	0.7

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

6) 菜豆

作況：やや良

事由：平年より2日遅い5月24日に播種を行った。播種後、5月下旬～6月上旬の平均気温は平年より低かったため、出芽期は平年より4～5日遅れた。しかし、出芽後、6月中旬の平均気温は極めて高く、また日照時間も多かった。そのため、出芽後の生育は順調で、草丈は平年をやや下回っているが、本葉数は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	大正金時			福勝		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期 (月.日)	5.24	5.22	2	5.24	5.22	2
出芽期 (月.日)	6.11	6.6	5	6.12	6.8	4
草丈(cm) (6月20日)	8.7	10.1	△ 1.4	8.4	9.2	△ 0.8
本葉数(枚) (6月20日)	1.4	0.8	0.6	1.4	0.8	0.6

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、21年(最豊)を除く5か年の平均。

7) ばれいしょ 作 況：やや良

事 由：植え付けは平年よりやや早い5月10日に行った。植え付け後、5月中下旬の気温が平年よりかなり低く推移したことから、萌芽期は「男爵薯」で1日、「コナフブキ」で4日遅かったが、その後は、気温の回復と適度な降雨があったことから地上部の生育が進んだ。「男爵薯」、「コナフブキ」とも茎数は平年並であったが、茎長はやや長かった。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期 (月.日)	5.10	5.12	△ 2	5.10	5.13	△ 3
萌芽期 (月.日)	6.3	6.2	1	6.8	6.4	4
茎長(cm) (6月20日)	22.3	16.8	5.5	21.2	17.8	3.4
茎数(本/株) (6月20日)	3.7	3.6	0.1	3.4	2.9	0.5

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

8) てんさい 作 況：平年並

事 由：5月下旬以降の日照時間がやや多かったこと、および6月中旬の気温が高かったことから、生育は回復した。移植栽培の草丈、生葉数、茎葉重および根重は平年をやや上回っている。一方、直播栽培の草丈と生葉数、茎葉重および根重は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (6月20日)	29.0	26.2	2.8	28.8	26.3	2.5	15.1	14.0	1.1
生葉数(枚) (6月20日)	12.6	11.2	1.4	11.9	10.5	1.4	7.1	6.6	0.5
茎葉重(g/個体) (6月20日)	127	101	26	115	96	19	17	15	2
根重(g/個体) (6月20日)	29	18	11	25	18	7	1	1	0

注) 平年値は前7か年中、17年(最豊)、平成19年(最凶)を除く5か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況：やや不良

事由：5月下旬の気温が低かったため、6月5日の草丈は平年よりやや低かった。その後6月中旬の気温が極めて高かったため、生育の遅れはやや回復し、出穂始は平年より2日遅い6月16日であった。なお6月20日現在、出穂期に達しておらず、1番草の収穫は未実施である。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	ノサップ		
	本年	平年	比較
出穂始 (月・日)	6.16	6.14	2
出穂期 (月・日)	未達	6.19	
病害罹病程度 1番草	1.0	1.9	△0.9
草丈(cm) (6月5日)	62	71	△9

注) 平年値は前7か年中、平成16年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

10) たまねぎ

作況：やや不良

事由：5月下旬の最高気温及び平均気温は平年に比べて極めて低く、6月上旬まで平均気温は低く推移したことから、両品種とも生育は停滞した。その後の気温上昇に伴い生育は回復してきているものの、生葉数及び葉鞘径は平年をやや下回り、草丈は平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (6月20日)	37.3	42.9	△5.6	24.7	33.6	△8.9
生葉数(枚) (6月20日)	5.6	6.1	△0.5	5.0	5.8	△0.8
葉鞘径(mm) (6月20日)	9.7	10.6	△0.9	7.3	8.7	△1.4

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)を除く5か年の平均。